



「互いに謙遜を身に着けなさい」 (要旨)

I ペテロ5章5節～7節 説教者 原田憲夫

説教前賛美曲：新聖歌394 番「成し給え汝が旨」(1,3節)

説教後賛美：21讃美歌 520番「真実に清く生きたい」(1-3節)

今週の聖句：箴言18章12節

使徒ペテロは、様々な試練の中にある「神の羊の群れ—教会」—各地に散らされて寄留者の生活を余儀なくされているクリスチャンたち(1:1,7)—に堅く信仰に立ち、互いを尊重し、それぞれの役目を果たすようにと励まし、勧める(5:1-4,9)。

【1】「みな互いに謙遜を身に着けなさい」(5)

かつてペテロは、大事な局面で自分の仲間たちと大きな失態を演じた。

過越の祭り—十字架の道へと向かう主イエス。不安、恐れが弟子たちを覆う夕食の場面で、弟子たちは仲間の中でだれが一番偉いかと競い合ったのである。

▶その時、主イエスは弟子たちを諭された。「あなたがたの間で一番偉い人は、一番若い者のようになりなさい。上に立つ人は、給仕する者のようになりなさい」(ルカ22:26)と。そして主イエスは仕える者—しもべの姿を示しながら「互いに足を洗い合うように」と諭された(ヨハネ13:14)。⇒マタイ11:29。

【2】「神の力強い御手の下にへりくだりなさい」(6)

人は様々な試練に遭い、不安や恐れが心に広がると、「自己中心性/高慢さ」が首をもたげ、他者を押しつけようとし始める。しかしその先は「破滅」である。

▶使徒ペテロは、試練の中にある一人ひとりに向かい「あなたがたは神の力強い御手の下に」あるという自覚—へりくだること—を忘れてはならないと諭す。

「謙遜」—「ほんとうの自分」を「みことばという鏡」の中でしっかり視る時、神の「恵み」に拠り頼む以外に道はないことに気付かされる(Iペテロ5:6)。

そして「謙遜」は「神の恵み・平安」をもたらす。

【招き】

*箴言18:12「人の心の高慢は破滅に先立ち、謙遜は栄誉に先立つ。」

▷さあ今日、キリストに倣(た)い、「高慢」という上着を脱ぎ、「謙遜」を身に着け(Iペテロ5:7)、互いの足を洗い合い、共に励まし合いながら歩もう！

(祈り)